

# 「山形大学ビーチサッカー大会」の開催

鶴窓会副会長 齋藤 博行 (昭和45年農学科卒)



今年で6回目の開催となりますが、9月19日に鶴岡市由良海岸で開催されました。前日は台風18号が通過し、各地で暴風や大雨の被害がありました。実行委員の学生は朝から砂浜のゴミを集めたり、会場の整地をしたりで大変だったようです。また、朝も強い雨が降りましたが、開会時刻になると晴れてきました。

会場の砂浜には台風の影響で大きな波が打ち寄せるので、ザーザーと波の音がうるさい位でよく声が聞こえません。

開会式では、農学部長の林田光祐先生、校友会副会長の野村一芳さんの挨拶があり、実行委員長の農学部草野琢磨さんの競技説明のあと、6チーム総当たり戦の試合が行われました。

今年も60人ほどの参加者で、昨年と同様です。

昼食は昨年同様、おにぎりや焼肉でしたが、特に肉は例年どおり農学部卒業生の鶴岡市の長南牛肉店に手配したとのこと。参加学生の評判は上々で、これを楽しみに毎年参加している学生も多いようです。学生時代の素晴らしい思い出になったことでしょう。

小白川キャンパス、米沢キャン



パス、鶴岡キャンパスからの選手参加で、飯田キャンパスの学生の参加がなかったのは残念です。

これを機会に卒業後もビーチサッカーが縁で友人関係が続くことを期待します。

熱戦の結果、1位は農学部の「オクチクチュクコミュニケーション」、2位が工学部の「ごりらばすてるどりーまー」、3位も工学部の「菅原さんの3P」チームで、表彰は鶴窓会会長佐藤農が行いました。

# 平成29年度 山形大学農学部学生研究支援事業について

鶴窓会副会長

齋藤 博行  
(昭和45年農学科卒)

母校の発展に寄与すべく発足した本事業は平成21年から開始し、本年は9年目になります。当初計画では20課題の採択でしたが、会費納入が大幅に減少したことから採択件数の見直しが必要になってしまい、わずか2課題になってしまいました。また研究要望課題が提出されないことも関係しています。

企業、団体、個人経営者



から見れば研究開発への経営リスクのない方式で母校の学生に課題解決をしてもらうことになりまして、メリットは大きいものがあります。

産地間競争や企業間競争のためには、常に新規性の研究開発、技術革新が求められていますので、これを母校に頼ってみるのはいかがでしょうか。

ただし、要望した課題でも学生が卒論に取り組んでいないこともありまして、今までも研究要望から3年間経って学生が卒論課題に取り組んだ事例もありません。何はともあれ、研究要望課題を提出して頂きたいと思います。

これらの要望課題が深化して将来の産学官連携研究事業に発展できれば、大学、国や県の研究機関、企業・団体等の連携研究で、大きな研究課題に発展できれば素晴らしいことです。

また、研究に取り組んだ



学生を企業等に採用することも可能でしょうから、企業と学生の両者にメリットがあります。

是非とも鶴窓会ホームページから申請書をダウンロードして頂き、事務局あて送付願います。

また、研究支援事業の一環として本年3月の卒業式・学位授与式終了後、同会場にて農学部長表彰に次いで鶴窓会会長から成績優秀者に表彰状の贈呈を行って鶴窓会の学生支援事業として紹介することができました。

## 平成29年 山形大学農学部学生研究支援事業採択課題

(申請2件、採択2件)

- 1 研究実施学生 芦川 基(農学研究科 生物資源学専攻)  
研究課題「水田微生物燃料電池の発電に対する各種要因の影響」
- 2 研究実施学生 及川 華奈(食料生命環境学科 水土環境科学コース)  
研究課題「サクラマス成魚の夏期利用環境の把握とその特性に関する研究」

### 平成29年 鶴窓会会長賞受賞者

大学院農学研究科 生物生産学専攻2年 菅原 直人  
大学院農学研究科 生物資源学専攻2年 伊藤 瑛  
大学院農学研究科 生物環境学専攻2年 鈴木 佑梨  
食料生命環境学科 安全農産物生産学コース4年 室井 智陽

食料生命環境学科 食農環境マネジメント学コース4年 山下 美保  
食料生命環境学科 食品・応用生命科学コース4年 熊田 麻希  
食料生命環境学科 植物機能開発学コース4年 中村 李  
食料生命環境学科 森林科学コース4年 岡野 達也  
食料生命環境学科 水土環境科学コース4年 市橋 永吉

# 夕陽が素敵な宿

「夕陽」。燃えるような太陽の休息。  
太陽が水平線に沈みゆく刹那。  
息を飲むような夕焼けを見に行きませんか？

※天候により夕陽をご覧頂けない場合がございます。



湯野浜温泉 愉海亭 みやじま

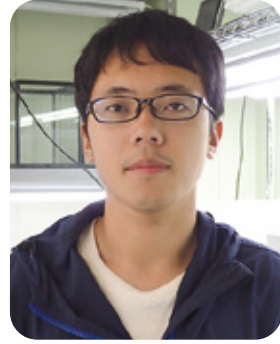
鶴岡市湯野浜1-6-4 ☎0235-75-2311  
<http://www.yukaitei-miyajima.com>

愉海亭みやじま 検索

お宿のおもてなし

夕陽の時間、ラウンジでご当地ワインと山形名物玉こんにやくをサービス

# 在学生の声



## 「経験は無駄には ならない」

白井 拓也

(安全農産物生産学コース4年)

私はすでに4年生になり、4年間の短さを感じています。3・4年生と研究室で2年間を過ごし、この大学に来てよかったと心から思います。農学部というものから農業と単純なイメージで山形大学農学部に入りました。1年生の時は初めてのことが多く、大学生の新鮮な生活を楽しんでいました。1年生の当時は、何かをして毎日を過ごしていたと思います。今振り返るともったいない1年だったと感じます。2年生も同様です。なぜなら、3年生からの研究室生活がとても苦しく大変だったからです(もちろん楽しんでいますが)。配属されてすぐに今まで

の生活が、楽なことばかりで、社会に出た後のことも深く考えず、意味のない生活だったと思います。研究室の諸先輩方を見て、憧れと不安が入り混じった感情になりました。案の定、3年生前期の途中で壁にぶつかり、悩むことも多かったです。今振り返ると、大変だったしつらかったと思います。しかし、あの経験は無駄じゃないと何度も感じます。前期が終わり夏休み明けには、教師になるという夢を見つげやと研究室に適応できたと感じました。その時を境にこの研究室に来てよかったと実感し始めました。様々な経験を留意してくれるので、それにうまく対処しつつ自分の糧としていく生活が楽しいと感じるようになりました。

経験といえば、アルバイトというのは大学生のうちをやっておくべきだと思いました。様々な業種があると思いますが、どの職場でも学べることは多いです。多様な人々が混在する中で働くというのは、社会勉強としていいと思います。大学生のうちだからこそ感じ取れる何かがあったように思います。現在は、卒論を完成させることに力を入れる日々を送っています。去年の先輩方のように満足いく結果を得られるよう頑張りたいと思っています。これからプレッシャーにさらされる時期になってくると思うので、覚悟して臨みたいと思います。今4年ですが、私は院への進学を決め、もう2年間この大学の

この研究室で過ごすことになりました。あと2年後にさらなる成長があることを期待しつつ、日々努力していこうと思います。



## 「ウエイトリフティング を始めてみて」

鳥田 廉

(植物機能開発学コース2年)

小白川の道場に初めて足を運んだのは、1年の秋でした。ウエイトトレーニングをしているというところを聞き、実際に来てみたら、ウエイトリフティング競技の同好会が活動しているということでした。最初は競技ということもあり、少し不安になりましたが、一緒にやってくれる仲間、OBの方などいろいろな人の支えもあって、徐々にウエイトリフティング競技の魅力を感じ、今まで続けることができたと思います。記録は少しずつですが、伸びていることが分かり、より

具体的な目標を立てやすいこと

から、やる気や向上心を失うことなく、頑張ることができているのだと感じます。今年の4月から鶴岡に移りましたが、大学には練習場がないことにより、OBの方々や新しい練習場所の確保、器具の手配などをしていただいたため、小白川にいたときのように、身近な環境で練習をすることができるようになりました。ウエイトリフティングという競技は実際に1人で行うものなのですが、先ほども書きました通り、仲間やOBの方々などのいろんな人達の支えがあつてこそ、しっかりと練習等に取り組んでいるのだと感じました。このことを忘れずに、今後も活動していきたいと思っています。



## ウエイトリフティングを 始めて

鈴木 大規

(植物機能開発学コース1年)

私は、小学校、中学校でサッカー、

高校では陸上競技の短距離をやっていたため、ウエイトトレーニングはあまり行っておらず、華奢な体型でした。大学では、新しいことに挑戦してみたいと思っており、また、それまでの華奢な体型から強い体になりたかったことがきっかけでウエイトリフティング同好会に入会することにしました。

ウエイトリフティング同好会に入会して驚いたことは、山形でウエイトリフティングが広まるきっかけとなったのは、今はなき山形大学重量挙げ部の活躍であったことと、山形大学重量挙げ部にはOB会が存在し、重量挙げ部の現役部員復活を目標とした活動が行われていることでした。入会した当初の目的は体を強くすることであつたので、ウエイトトレーニング(ベンチプレス、スクワット、デッドリフト)ばかり行っていました。が、月一でウエイトリフティングの指導にあたってくれるOBの方々の精力的な支援や重量挙げ部に対する熱い思いに感化され、徐々に競技としてウエイトリフティングをやってみようと思うようになりました。

昨年の11月には山形県選手権大会に出場するなど活動記録を残し、今年から正式な部活として、ウエイトリフティング部が復活しました。部員数は少ないですが、かつての輝きを取り戻せるよう、日々のトレーニングに努めていきたいと思っています。



## 留学生の声 大学院農学研究科1年 角田 憲一 研究室 Hideraldo Salomão DUARTE

I am Hideraldo Salomão DUARTE by name; I am from Mozambique, "minami Africa". I am in Japan since 28th August, 2016 to attend Master course at Yamagata University under ABE Initiative scholarship sponsored by JICA. However, what I can share about my stayed here in Japan for this first year is pleasurable for me and I hope with this to motivate more potential student, not only from Africa, but also from entire world to come and "learn or share" the culture with Japanese people.

I have been working in Agriculture sector in my country since 2010, in rice research sector, and in order to strengthen my capacity on this field I got an opportunity to specialize in Edaphology (Soil Science and Plant Nutrition), where I joined the Laboratory of Edaphology lead by KAKUDA, Ken-ichi Sensei and SASAKI, Yuka Sensei since September 13th ,2016.

My university, Faculty of agriculture - Tsuruoka campus, has a single department (Department of Food, Live and Environment Sciences) that offers six courses. It has a huge rice experiment field with 10 hectares where mainly agriculture research takes place. Beside of that it also have many green houses for different fields/crops research.

My master thesis is entitled "Effect of N application methods and rice straw management on rice productivity and soil fertility" with Site Specific Nutrient Management (SSNM) approach, a kind of study that is focus on my country rice production practices and I expect with this to help somehow the improvement of current rice production in my country. However, related with laboratory work, I am really fascinated with the education approaches that my Sensei use for teaching us mainly with focus on capacity development on "how to do and why to do it". I can strongly say that the approaches that my Sensei use is to offer to the market the "well capacited experts" with well-known about our field (Edaphology - Soil science and plant nutrition) in particular and in agriculture in general. Team-work is "word of order" and well encouraged in my laboratory, as my Sensei used to say "90% of work is made where we are planning and the remains 10% is reached when we are executing/implementing it", in other words, I can say that "works well planned is guarantee of 90% of success". So we have a week plan every Friday in order to reach our goals under 90%. "Domo arigato gosaimasu" (Thank you) to my sensei to keep us in line.

Favorable Sport: My favorite sport is Basketball although since I reached Japan I changed complete to Karate, my new and amazing sport. I use to practice karate and run at Komaki Park (KOMAGIHARA-KOEN) three days a week.

Language Barrier: Yes, I cannot say that everything goes well because I supposed to be lying, unfortunately with my lack knowledge of Japanese sometimes I faced serious problem to communicate mainly when it's come to mobile phone services - deliveries, etc. That's why I can advise for the readers that if you can try to learn a bit conversation in Japanese before reach the country is GOOD.

Culture: Cherry blossom festival also called Sakura festival - amazing experience that I got, take place from the middle of April to the end of April is one of the diversity culture of Japan. Japanese cousin in general is delicious, but my votes go to Ramen, raw fish and sushi. However, Japanese restaurants with special dishes you can find around Tsuruoka. On the other hand, I got also opportunity to taste the rice wine called "sake" in sake festival that toke place on February.

Nevertheless, Japanese people are also able and ready to learn about the culture of the others with much respect, I got opportunity to share in KOKUSAIMURA, in a cooking class, the three dishes of my country and it was amazing for me.

Weather conditions: The climate in Tsuruoka is amazing, sometimes I felt like I am in Africa but other time it was really strange for me (strong snow). I can say that I had my first snow contact in Tsuruoka, I had never ever seen before unless in the TV. This two extreme weather conditions give us the opportunity to enjoy the beaches and rivers in summer and snowboard or ski in winter, conditions that you cannot find in many countries in entire world.

Social network, is a real in Tsuruoka, we have opportunity to meet with people from different countries in some festivals or events organized by KOKUSAIMURA, our host house, if allow me to call like that. And if you reach Tsuruoka and need guide, please visit this place.

Just to finish I want to thanks JICA for giving me this opportunity. I really fill like I am at home, Japan is my second country even because, I never spent over a year out of my home country before. So thank you all for hosting me.

## 支部報告

### 北海道支部(月山会)

月山会会長

磯部 勝彦

(昭和52年農業工学科卒)

昨年8月に四つの台風が北海道に上陸・最接近して、甚大な被害をもたらしました。特に一大食糧生産基地である十勝管内の農地、農業用施設は、再生産に向けて復旧を目指している最中、日本列島を縦断した今年の台風18号により、再度被災を受けるといった事態になりました。被災規模は、昨年度と比べる

と些少ではありますが、2年続けて収穫間近の農地が被災した農家もあり、心中を察すると言葉もありません。

また昨年12月には、台風被害に輪を掛けて十勝管内で道内初の高病原性鳥インフルエンザが発症し、改めて危機管理の重要性を認識させられた1年となりました。

さて、鶴窓会北海道支部の恒例行事となりました月山会を9月16日土曜日16時から、札幌市内のホテルで26名の会員の参加により開催しました。

開会にあたり磯部会長より、平成2年に発足した月山会は28

回を数え、諸先輩の会長から引き継がれ5代目会長に就任したこと、鶴窓会事務局の名簿から300名を超える会員に案内状を送付できたこと、今年5月に鶴岡で開催された代議員会出席し、林田農学部長と今の農学部の定数や学生の状況について話が聞けたことの報告など挨拶と乾杯で開宴となりました。

宴の冒頭、本会を10年間牽引された菅原前会長(農業工学科40年卒)に対して、鶴窓会本部より贈呈のあった賞状と記念品を磯部会長から授与させていただきました。その後、会員各位の近況報告や久しぶりの再会にそれぞれ思い出話に華をさかせ、また、数年ぶりに復活した山形物産抽選会などのアトラクションを織り交ぜて楽しい一時は、あつという間に過ぎていきました。

最後は、逍遙歌を皆で斉唱し、和やかな雰囲気の中、十勝管内在住の佐々木正光氏(林学科31年卒)の締めで、来年度の再会を固く誓い合い散会となりました。

会長からの話にもありましたが、鶴窓会の名簿から道内に300名を超える会員がいることがわかり案内したところ、初めて参加された方や久しぶりに参加された方などがいた一方、参加者数が伸びなかったこと、特に、これから本会を担っていただく若い方の参加がなかった課題もみえました。

本会が末永く継続でき、多くの方に参加していただける活気ある会になるよう会長を筆頭に幹事一同で頑張ってくださいと考えております。(文責:原田 淳(農工60年卒))



月山会(北海道支部) 平成29年9月16日(土) 於: TKPガーデンシティ札幌駅前

## 〈鶴窓会事務局より〉

コンビニでの支払いが可能になりましたので是非ご利用下さいますようお願い申し上げます。

## Al-ché-cciano アル・ケッチャーノ

地元食材を使用した飲食店運営  
オリジナル商品の開発・販売  
イベント企画・運営 などを通じ  
生産者様とお客様を全国でつないでいます。  
株式会社オール・ケッチャーノ  
〒997-0341 山形県鶴岡市下山添一里塚83 tel.0235-78-7230



新卒・キャリア 採用行っております